【資料紹介】大正関東地震における社寺被災史料について

浪川幹夫（鎌倉国宝館学芸員）

［鎌倉町編 1930］によれば、大正関東地震発生当時（1923.9.1）の鎌倉の被害は、鎌倉町（現在の大船・山ノ内・腰越地区等を含まない範囲）で建物は全壊 1,455 戸、半壊 1,549 戸、埋没 8 戸、津波による流失 113 戸、全焼 443 戸、半焼 4 戸。死者は 412 名、重傷者は 340 名を数えた。大船（山ノ内を含む）の被害は全壊 450 戸、半壊 80 戸、死者 18 名、負傷者 23 名。腰越津村の被害は全半壊合せて 310 戸、死者 70 名であった。深沢村もかなりの被害を蒙ったというが、詳細は判らない（当時の鎌倉町の全戸数は、4,183 戸。大船の全戸数が 635 戸で、腰越津村は 500 戸以下であった）。そして、社寺の被害について、同書「第三章 社寺並に名所旧跡の被害」の項は、被害別棟数を神社では社殿全壊 10 棟、半壊 4 棟、付属建物の全壊 15 棟、半壊 10 棟、寺院では堂宇の全壊 28 棟、半壊 25 棟、付属建物の全壊 82 棟、半壊 58 棟とし、焼失は免れたと記している。

鎌倉所在社寺の被災調査は、地震発生後速やかに実施された。このたび、各社寺から当時鎌倉町に提出された調査報告書や復興に関する史料の翻刻および整理作業が終了し、さらに、鎌倉町外所在寺院の被災記録のほか、建長寺や高徳院の復興状況を示した史料が入手できたので、本稿ではその翻刻文を紹介し、併せて各社寺の被災写真を掲示した。それらは、鎌倉市中央図書館と鎌倉国宝館が所蔵する震災関係史料のうちの一部で、下記の 6 件が存在する。

№1.『大正十二年 社寺書類 震災被害調 鎌倉町役場』（鎌倉町長 早川義雄宛届出）より報告書類

№2.『神奈川県鎌倉郡寺院宝物調査報告書（写）』

№3.鎌倉大仏の被災と修復に関する史料（一部長谷地区の社寺を含む）

№4.建長寺（鎌倉町外）の寺院の被災と復興に関する史料

№5.鎌倉町外の社寺被災記録

№6.社寺の被害状況写真集

№1.は、地震発生直後に各社寺から町役場に提出された、被災調査の報告書である。そのうち「神社仏閣被害調査ノ件（T12.9.15.調査依頼）」は、報告日未記載の書類以外はその年の 9 月 17・18 日、遅くとも 10 月 18 日までに提出されている。これらは、それぞれ記述に差がみられるが被災状況は確認でき、中には損害見積額や復旧見込みの有無などが記されたものもある。そのうち小町の妙隆寺のように、本堂について「倒潰 再用の見込無し 本堂は未だ倒潰の儘にて委細を知る事不能なり」とあることや、乱橋材木座の九品寺のように、本堂内の本尊や仏具什宝類が「斯ハ大家根圧倒セシ為メ未ダ内部ノ調査スル能ズト云ドモ大部分破壊ノ見込」とあるなど、激甚被害のため詳細調査ができない姿も窺える（表 1.）。そのうえ、表 1.から全壊・半壊等被害別に棟数を数えた場合、［鎌倉町編 1930］の被害別棟数とは一致しない。表 1.の元史料は地震発生直後のものがほとんどで、被災状況が明らかなものとしては社殿の全壊 13 棟、半壊 6 棟、堂宇の全壊 39 棟、半壊 20 棟がある。この数の差は大きく、［鎌倉町編 1930］の編集時に、被災基準の見直しや提出された各種資料の再整理などが行われた結果生じたものと考えられる。

№2.は、大正 13 年（1924）11 月の神奈川県からの求めに応じて、当時の鎌倉町とその近在寺院が所有する仏像什宝類の調査結果と、それらの被災状態を報告したものの写しである。この史料は「緒言 凡例」にあるように、「震災後の復旧困難にして破損せる仏像は唯だ破片を堆積するに任せて、為に調査の不可能なるもの往々あり。什宝も亦未だ整理の緒に就かず、其所蔵の場所より乱抽して展閲するが如き状態」にあって、被害や所在の全容が把握できていなかったことが窺える。本稿では当該史料にある調査表の中から、地震破損の記事がある彫刻や什宝のみを抽出した（表 2.）。なお、表中の（○）は「国宝の資格あるもの、又は国宝資格な

きも畧ぼ之に準する価値あるものにして相当の保護を加ふべきもの」で、（△）は「前項のものよりも価値更に下るも、或は歴史的に観て、或は其製作に観て猶ほ多少の注意を価するもの」であるという。

№3.の「長谷区 震災誌編纂資料 相澤」は、長谷地区における高徳院ほかの被災と修復についての史料である。当時の鎌倉国宝館主事相澤善三が認めた原稿で、他にほぼ同内容のものが１点存在し、それらには高徳院での大仏尊像や諸建物の被災状況以外に、翌年１月 15 日の丹沢地震で再度尊像が移動したこと[JACAR(アジア歴史資料センター)]、その後の台座の復旧作業と、その結果確認できた旧台座の石組み構造が書かれている。殊に尊像が傾斜した要因について、旧台座は構造物としての間知石の裏込が不完全なため崩壊しやすく、さらにその前側は捨石が無いため沈下したとする興味深い記述もある（図 1.及び図 24.参照)。

ところで、寛保 3 年（1743）の奥書がある高徳院蔵『長谷村浄土宗高徳院大仏鑄掛修復托鉢願日鑑』によると、鎌倉大仏は元禄 16 年 11 月 23 日（1703.12.31）の元禄関東地震で「台座石段後〻高サ」が 9 尺(2.727m)、「同前〻高サ」が 6 尺(1.818m)となり、台座前方の「石壇」も崩れて、像が 3 尺（0.909m）ほど下に傾いたという。台座は、祐天上人(1637～1718・増上寺第 36 世)によって修復されたが、この後の嘉永 7 年 11 月 4 日（安政元年・1854.12.23）の安政東海地震や、安政 2 年 10 月 2 日（1855.11.11）の安政江戸地震などでの被災記録は見あたらない[浪川幹夫 2006.12・鎌倉国宝館 2015・鎌倉市 1988]。これらのことからすれば、大正関東地震以前の台座は、元禄関東地震後に修復されたものである可能性は高いと考えられる。この二つの史料は、大仏が傾斜した要因が推定できるのみならず、大正関東地震以前の台座構造が判る史料として貴重である。

№4.は、建長寺が提出した復興に関する「調書」である。調書は 3 枚で、それぞれに被災諸堂宇の復興についての記述があるほか、各書の「八、工事の概況」には被災状況も書かれている。それらの被災記事うち、山門や仏殿、法堂については、当時の写真どおりである点興味深い。殊に仏殿修復に関する記述は、現仏殿前に建つ「仏殿唐門重修碑」に書かれた県知事名や工事関係者名などとは一致するものの、国庫補助金の額や寺の負担額等に違いがある[武村雅之他 2016]。その詳細は不明だが、参考までに付記しておく。

№5.の「昭和十五年 社寺書類」には、建長寺と円覚寺の塔頭や末寺、大船・玉縄・岡本方面など、当時の鎌倉町外所在寺院の被災記録が報告されている。ただし、建長寺と円覚寺の記述はなく、とくに円覚寺の被災状況に関しては、［鎌倉町編 1930］の記述と当時の写真から知り得るのみである。

№6.は、地震発生直後の一群の写真である。これらは当時、鎌倉同人会が「長谷の山辺写真師」に撮影させたものだという［澤壽郎 1965］。

従前、鎌倉所在の社寺や名所・旧跡の被害については、[鎌倉歴史文化交流館 2019］の「鎌倉の社寺と名所旧跡などの被害について」の項で詳記した。そこに紹介した各社寺の被災内容は、［鎌倉町編 1930］の「第二章 各区の被害状況」と「第三章 社寺並に名所旧跡の被害」の項を基に、『大正十二年 社寺書類 震災被害調 鎌倉町役場』の記述を追加して作成したものである。[鎌倉歴史文化交流館 2019］を参照されたい。

参考文献

・鎌倉国宝館 2015『特別展 鎌倉震災史―歴史地震と大正関東地震―』同館 49-52pp、107-111pp

・鎌倉町編 1930『鎌倉震災誌』鎌倉町役場　国立国会図書館デジタルコレクション 79-111pp
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1464097

・澤壽郎 1965『鎌倉同人会五十年史』鎌倉同人会事務所 80p

・鎌倉歴史文化交流館 2019『写真集 Kamakura Disaster 災害と復興 ―土地に刻まれた痕跡―』同館 161-166pp

・高徳院蔵「明治十二年より二十五年 大仏殿再建日記」鎌倉市 1988『鎌倉市史 近代史料編』第 1 吉川弘文館 217-247pp

・武村雅之・都筑充雄・虎谷健司 2016『神奈川県における 関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構』(その 3 県東部編） 名古屋大学減災連携研究センター 15-16pp

・浪川幹夫 2006.12「鎌倉大仏の再興と明治維新」『鎌倉』102 号 20-31pp

・JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C08051302700「１月 15 日震災関係(1)」『大正 13 年 公文備考』巻 132　外国人変災災害兵事（防衛省防衛研究所） 国立公文書館 アジア歴史資料センターHP
https://www.jacar.archives.go.jp/acv/contents/pub/pdf/C08/C08051302700.c0650324098.koubun_2344.1968_01.pdf

№1.『大正十二年 社寺書類 震災被害調 鎌倉町役場』(鎌倉町長 早川義雄宛届出) より報告書類

表 1.大正関東地震における鎌倉社寺の被災状況等の報告内容

原典:「神社仏閣被害調査ノ件 (T12.9.15.調査依頼) 」(鎌倉市中央図書館)、相澤善三「長谷区 震災誌編纂資料 相澤」

十二所

社 寺 名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度 (被害額ほか、寸法・法量等も含む)
十二所神社 報告日未詳	鳥居	破壊
	灯籠 二組	破損
光 触 寺 T12.9.17.報告 (図 5.)	本堂 壱棟 間口五間三尺 奥行五間	内陣須弥壇破壊、壁全部落、東南ニ注斜、正面柱四本中途折レ防備加ヘ候ヘ共モ七分ノ災害
	書院 壱棟 間口六間 奥行五間	全部潰レ 安政六年改築
	玄関 壱棟 間口二間 奥行弐間	全部潰レ
	庫裡 壱棟 間口四間 奥行六間	半潰レ 東南ニ倒レ全部立替セザレバ用ヲナサズ
	境外ノ田地 壱反歩	岩石破崩シ全滅ト変ス
	国宝 本尊頬焼阿弥陀 壱軀	本堂内陣須弥壇破壊際手少シ破損、体軀無事
	観音大士 壱軀	災害 無之
	勢至大士 壱軀	災害 無之
	頬焼阿弥陀縁起 弐巻	災害 無之
	国宝ハ鄭重ニ保管仕候	
明 王 院 T12.10.7 報告	神社仏閣ノ損害調書御提出相煩候処尚左記三項至急御調査ノ上 (略) 届書御提出相成度候也	
	損害ノ総見積額	金弐百円也
	祭事仏事ノ支障ノ有無	差支ナシ
	復旧ノ能否、能フトキハ其ノ方法	明王院所有ノ立林ヲ伐採スルトキハ復旧容易ナラム

浄明寺

社 寺 名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度 (被害額ほか、寸法・法量等も含む)
浄 妙 寺 報告日未詳	本堂 (方丈)	弐分破損
	庫裡	七分倒潰
	寺門	被害無シ
	荒神堂	被害無シ
	物置	半潰
	崖崩	五ヶ所
報 国 寺 T12.9.18.報告 (図 6.)	本堂 壱棟	間口七間 奥行六間 茅葺本屋 全部倒壊
	玄関 仝	間口弐間 奥行壱間五尺 瓦葺 渡廊下壱間半共九分破損
	庫裡 仝	間口六間弐尺 奥行七間四尺 瓦葺本屋 半潰
	庫裡ニ接続セル小座敷 仝	間口四間半 奥行弐間半 瓦葺本屋 全部倒壊
	倉庫 仝	間口三間 奥行弐間 茅屋二階建 半倒壊
	総門 仝	茅葺 全倒壊 両袖石垣四間余共全壊
	中門 仝	瓦葺 全倒壊 両袖板塀三間余共全壊
	鐘堂 仝	基礎工事 石垣潰崩 堂宇損害一分
	本尊仏 壱軀	木刻 首部破壊
	境内崖崩 四ヶ所	境内周囲南西北面丘陵崩潰 岩石土砂顛墜竹木損害多し
	所有地崖崩 七ヶ所	寺有籔地二ヶ所 山林崩潰五ヶ所 岩石顛墜田畑被害調査未済
	溝渠破壊 壱ヶ所	境内ヲ南北ニ通スル幅約壱間ノ溝渠護岸石垣約二十五間余両納メ

二階堂

社 寺 名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度 (被害額ほか、寸法・法量等も含む)
荏柄天神社 報告日未詳 (図 7.)	社殿 壱棟	東方ニ斜ク
	石鳥居 壱基	倒壊全滅 (破損組立不能)
	石灯篭 壱対	倒壊
	石灯篭 壱基	倒壊全滅 (破損組立不能)
	境内保安林 崖崩レ二ヶ所	壱ヶ所ハ約六十坪崩レ 松目通リ五尺一本 尺以下雑木十三本生存ノ見込ナシ 壱ヶ所ハ約二十坪崩レ 樹木ナシ
覚 園 寺 T12.9.17.報告	仏殿 一宇 木造草葺	七間四面 位置移動半壊
	須弥壇 仏殿内部	破壊
	本尊 薬師如来像 丈八尺 一体	転倒微塵破壊
	脇士 日光 月光 丈五尺 二体	々 々 々
	十二神将 十体	位置移動破壊

	十二神将　二体	転倒微塵破壊
	阿弥陀如来像　丈六尺　一体	破壊
	祖師像 開山像 等　八体	転倒破壊
	地蔵堂　　一宇　木造草葺	三間四面　　倒壊
	国宝 地蔵菩薩像　壱体	堂宇倒壊ニ付尊像破損ノ程度不明
	地菩薩像　壱体	々　　々
	不動堂　　一宇　木造草葺	三間四面　　半壊
	薬師如来像　壱体	破損
	愛染明王像　壱体	々々
	大師堂　　一宇　木造瓦葺	九尺四面　　倒壊
	祖師石像　丈六尺　壱体	破壊
	所有地崖崩　四ヶ所	凡百五十坪　樹木折損埋没
鎌　倉　宮 T12.9.17.報告	御殿御扉　　弐枚	破損
	中門御扉　　弐枚	破損
	御窟前木柵　四間	倒壊破損
	行在所硝子障子　五枚	破損
	社務所硝子障子　六枚	破損
	仝　　障子　弐枚	破損
	仝　　湯殿　全部	破損
	物置	倒壊全滅（間口参 奥行弐間 建坪六坪）
	水舎	倒壊全滅（間口壱間四尺弐寸 奥行壱間 建坪壱坪弐合五勺）
	勅碑	倒壊
	便所（参拝人用）	倒壊全滅（間口九尺 奥行壱間）
	杉	境内裏山破壊ノタメ倒ル（目通リ参尺壱本　目通リ弐尺壱本）
	境内裏山　参ヶ所	破壊墜落
	社宅　　壱軒	倒壊全滅（弐拾壱坪）
	外溝及土塁	倒壊全滅（延長六十八間全部　目下工事中）
	社務所　行在所	共ノ北方約壱尺ノ地点ニ移動セシモ被害極メテ少ナシ
杉　本　寺 T12.9.18.報告	本堂 庫裡 共	無事　無被害　本堂其他半潰ニ至ラス
	国宝本尊像　弐軀共	半倒壊
	表門外札番号碑	半倒壊
瑞　泉　寺 T15.10.19.報告	本堂　　壱棟	間口七間　奥行五間半　　全潰
	庫裡　　壱棟	間口七間半　奥行六間　　全潰
	総門　　壱棟	前面十尺　横八尺　　全潰
	山林　　参ヶ所	七十坪　　崩壊

西御門

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
来　迎　寺 報告日未詳	本　堂　　一	間口五間 奥行五間半　　全壊
	山　門　　一	間口九尺 奥行壱間　　全壊
	山　境内外　一	大約百五拾坪
高　松　寺 報告日未詳	本　堂　　一棟	全部倒潰
	門　　一棟	瓦葺屋根全潰傾斜

雪ノ下

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
鶴岡八幡宮 T12.9.18.報告 （図 8.～11.）	楼　門　　壱	顛倒破壊
	楼門左右透塀	仝　上
	下拝殿　　壱	仝　上
	神札授与所　壱	仝　上
	玉　垣　延長四十間	仝　上
	井戸屋形　壱	仝　上
	高麗犬（狛犬）　壱対	顛　倒
	石灯篭　　六対	倒　潰
	灯　篭　　弐対	仝　上
	大鳥居　　壱	仝　上　但壱材存在
	二ノ鳥居　壱	仝　上　仝
	三ノ鳥居　壱	仝　上　仝
	太鼓橋　　壱	陥　落

	若宮 玉垣　延長三十五間二尺	倒　潰
	白旗宮 仮拝殿　壱	仝　上
	白旗宮 霧除　　壱	倒　潰
	仝　鳥居　壱	仝　上
	由井若宮 神殿　壱	仝　上
	境内地大臣山崖崩	参ヶ所
	社号標　　壱	顛　倒
	本宮 回廊　壱部	些少傾斜
	本宮 拝殿	些少傾斜
	若宮 神殿 幣殿 拝殿	些少ノ破損
	本宮前 石段　一部	些少陥没
	源平池 石崖　全部	陥没破潰
	柳原池 石崖及橋　一部	陥没破潰
	社務所	小破損イザリ三四寸

扇ガ谷

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
浄光明寺 T12.9.20.報告 （図 12.）	仏体　七	修繕可能（歴史的由緒物）
	什宝　数十	仝　上　（後醍醐天皇綸旨已下）
	什器　数百	破　損　（仏具類調査未了）
	本堂　四間半 四面	破　損　（修繕可能　宝冠ノ弥陀奉安所）
	仏殿　五十六坪	倒　壊　（足利基氏建立　吉田松陰潜伏ノ由緒物）
	客殿　四間半 四面	仝　　（建武三年護良親王追善所トシテノ建立 足利直義開基ノ由緒物）
	庫裡　六十坪	仝　　大破損（修繕不可能）　　仝上
	廊下　玄関兼用	倒壊
	境外所有地内賃借	倒壊十　当寺ノ維持財源タルモノ
	契約地建造物	破壊七
	崖崩	六ヶ所
	石垣崩壊	数十間
	墳墓倒壊	数百　冷泉為相卿及鶴ヶ岡供僧坊十二院歴代墓碑其他
海　蔵　寺 報告日未詳 （図 13.）	仏殿　草葺　　壱棟	間口三間半 奥行三間　　四分害破
	本堂　草葺　　壱棟	間口八間 奥行六間　　全倒壊
	庫裡　草葺　　壱棟	間口五間半 奥八間半　　六分害破
	鐘楼　瓦葺　　壱	壱間四方　　全倒壊
	土蔵　草葺　　壱棟	間口二間 奥行一間半　　全倒壊
	惣門　草葺　　壱棟	間口一間三尺五寸 奥行一間二尺　全倒壊
	陰宅　草葺　　壱棟	間口五間半 奥行三間半　　全倒壊
	茶室　草葺　　壱棟	間口一間半 奥行一間半　　四分害破
	物置　草葺　　壱棟	間口三間半 奥行二間半　　無事
	崖崩	三ヶ所　損害少
薬　王　寺 報告日未詳	本堂　一棟　間口六間 奥行五間	本堂并ニ庫裡ノ建物半バ以上倒潰　建具類全部破損　居住ニ堪ヘズ
	庫裡　一棟　間口二間 奥行二間	什宝類一切無事
	小字亀ヶ谷四四六番ノ崖崩レ	凡ソ十坪位大崩レ
	扇ヶ谷字亀ヶ谷四百四十五番 寺有地	損害ノ程度不明
寿　福　寺 T12.9.17.報告 （図 14.）	総門　　一　間口二間 奥行一間四尺	倒壊　茅葺
	中門　　一　間口一間半 奥行一間一尺	倒壊　瓦葺
	通用門　一　間口八尺 奥行六尺	倒壊　茅葺
	仏殿　　一　間口六間 奥行六間	九分以上傾壊
	鐘楼　　一　間口十一尺 奥行十一尺	倒壊　瓦葺
	庫裡　　一　間口八間 奥行五間半	倒壊　茅葺
	書院　　一　間口五間二尺 奥行二間半	九分以上傾壊
	崖崩	大小十個所　大三十間 小十間以上
	仁王像　一　（運慶作トアリ）	倒壊
	雪隠　　二棟	半倒壊
八坂大神 T12.10.7 報告	本殿　　一	全部倒潰　　古材及瓦等多少使用出来得ル見込
	拝殿　　一	同
	神輿舎　一	同

	神輿　一	大破損セルモ修繕出来得ル見込
	鳥居　一	全部倒潰　使用ノ見込ナシ
	灯籠　二	同
	石橋及石崖　二　二十間	倒潰　多少修繕使用出来得ル見込
英　勝　寺 T15.10.18.報告 （図 15.）	損害総見積額	金七万円也
	倒壊家屋	山門。宝蔵。庫裡。長屋。門。
	傾斜建物	本堂及御霊屋拝殿
	保安山林　境内地	崩壊ノ立木凡百本位　寺有ノ分七十本位

小町

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
大　巧　寺 T12.9.18.報告 （図 16.）	本堂　間口五間 奥行三間参尺	明治三年改築　全潰
	仝上 内陣　間口弐間 奥行弐間	仝上　改築　仝
	庫裡　間口四間 奥行四間参尺	仝上　改築　半潰
	仝　間口五間 奥行参間	仝上　改築　仝
	八幡通　表門　桁間八尺 梁間六尺	仝上十二年改築　全潰
	小町通　石門　高サ壱丈 袖垣壱間参尺	大正八年改築　半潰
	物置　間口五間 奥行弐間	明治三年改築　全潰
	什宝	無異状
	境内	仝
	所有地	仝
妙　隆　寺 T12.9.18.報告	本堂　壱棟	倒潰　再用の見込無し　本堂は未だ倒潰の儘にて委細を知る事不能なり
	庫裡　壱棟	仝　畳十数畳の外建具類等再用を為さず
	表門　壱棟	半傾　土台石を脱し三尺程南に位置を転ず　営繕の上は旧復す
	日親上人 行堂　壱棟	倒潰す　営繕旧復の見込あり
	什宝類	日親上人直筆其他の曼陀羅二幅及日親上人絵像三幅対の物 日蓮上人木像
		日親上人木像等 過去帳 経机三脚 其他金具類等被害をのがる
	所有地	所有地は山林崖崩の外損害なし
宝　戒　寺 T12.9.18.報告 （図 17.）	本堂　壱棟	全部倒壊
	客殿　壱棟	全部倒壊
	太子堂　壱棟	全部倒壊
	山王社　壱棟	全部倒壊
	稲荷社　壱棟	全部倒壊
	表門　壱棟	全部倒壊
	屏風山	面積弐反歩程　崩壊
本　覚　寺 T12.10.報告	本堂　一棟	九十坪二合五勺　半潰　大正八年度改築
	仁王門　一棟	八坪　仝　同
	宗祖分骨堂　一棟	九坪　全潰 足利時代ノ建築ニシテ内部ノ彩色其他専門家ノ推考ヲ経サレハ損害高見積リカタシ
	仝　拝殿　一棟	十三坪五合　仝（全潰）　仝　上　延徳二年建立
	鎮守堂　一棟	二坪二合五勺　仝
	鐘楼堂　一棟	三坪　仝
	客殿　一棟	三十四坪二合　仝
	書院　一棟	二十九坪一合　仝
	庫裡　一棟	六十二坪五合　仝
	玄関　一棟	五坪　全潰
	台所　一棟	十九坪二合五勺　仝
	竈屋　一棟	三坪七合五勺　仝
	住職居間　一棟	十三坪七合　仝
	高廊下　一棟	十四坪　仝
	仝　一棟	四坪八合五勺　仝
	水屋　一棟	一坪　仝
	物置　一棟	十二棟　半潰
	通用門　二棟	三坪　仝

	湯殿　一棟	二坪　全潰
	板塀　三ヶ所	五十二坪　仝
	釈迦三尊之像　三体	破壊　臨時全国宝物取調局委員長ヨリ美術上参攷トナルヘキモノトノ鑑査状ヲ附セラレタルモノ、損害高見積リカタシ
	二天之像　二体	湛慶作　仝（破壊）
	仏像　十八体	仝
	仏具	仝

大町

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
妙　法　寺 報告日未詳 （図 18.）	本堂　一棟	九部傾キ 屋根瓦全部落チ 迎拝潰レ 造作全ク大破ス
	釈迦堂　仝	全潰
	法華堂　仝	八部傾斜
	鷲ノ宮　仝	倒ル
	鐘楼堂　仝	倒ル
	土蔵　仝	全潰
	廊下	全潰
	庫裡　仝	屋根瓦全部落チ 半傾斜
	山門 表門　二	一尺余位置替ル
	大門 宝塔　二基	倒
	官有境内　大町一八九三番地	五ヶ所　三畝歩余崖崩レ、立木数十本倒ル
	山林　大町一八九三、一八九四	保安林五ヶ所　五畝歩程山崩レ 立木数百本余倒ル
	山林　名越一九四四番	山崩二畝歩余　損害百廿円余
	山林　名越一七六三番	三畝歩余崩ル
	境内石段	巾二間 長サ廿間余崩ル
本　興　寺 報告日未詳	本堂　壱棟	間口六間 奥行五間半　全倒壊 （再ビ使用覚束ナシ）
	表門　壱棟	九尺四方　傾斜　四分被害
	庫裡　壱棟	間口六間 奥行四間半　傾斜　六分被害
長　勝　寺 T12.9.17.報告 （図 19.）	表門　壱個	倒壊
	鐘楼堂　壱個	倒壊
	宝庫　壱棟　六坪	倒壊
	講社室　壱棟　拾弐坪	倒壊
	本堂　壱棟　六十四坪	半潰れ
	客殿　壱棟　四十八坪	倒壊
	庫裡　壱棟　四十坪	半潰れ
	土塀　長さ七拾弐間	倒壊
	境内	崖崩れ
上　行　寺 T12.9.18.報告	本堂　建坪二拾一坪	半倒潰 六度五分之傾斜　四十五年前妙法寺ヨリ移ス
	山門　建坪弐坪六合	全倒潰
	庫裡　建坪拾九坪	半倒潰 五度之傾斜
	瘡守堂　建坪拾弐坪	全倒潰
	門石宝塔　高サ九尺	全倒潰
	板塀　高サ六尺 長サ六間	全倒潰
	石垣　高サ三尺 長サ五間	大破損
安　養　院 T12.9.18.報告 （図 20.）	本堂　壱棟	草葺建坪五拾坪余　全潰
	庫裡　壱棟	大正十一年改築　建坪八十三坪余　全潰
	廻廊及大玄関　壱棟	仝年改築　七坪余　全潰
	本尊阿弥陀仏　壱躰	恵心僧都ノ作　大破損
	千手観世音　壱躰	阪東第三番ノ本尊　丈五尺二寸恵心作　大破損
	六観音　六躰	大破損
	開祖及開山併ニ呑龍上人木像　参躰	厨子及木像　大破損
	仏具　壱式	大前札、御手掛札経机、登高座、金仏其他　大破損
	石垣　拾五間	開山及歴代ノ墓地等悉ク埋没本堂庫裡ノ後方モ悉ク崩壊
	山崩　百坪余	
延　命　寺 報告日未詳	本堂　一棟	瓦葺　間口五間 奥行六間　全潰
	庫裏　一棟	瓦葺　間口四間 奥行五間　全潰
	貸家　一棟	亜鉛葺　間口四間半 奥行三間半　全潰

	畑地　一ヶ所	土地陥落　四十坪程
	仏像　四軀	大破損
	墓	全部転覆小破
安国論寺 報告日未詳	本堂　壱棟	五六分傾斜、少数ノ丸柱居去リ、諸処破損ス 尾張公ノ寄附建築三十六坪　宝暦年間
	御小庵　壱棟	五六寸前へ傾斜ス　八坪半 嘉永年間
	庫裡　壱棟	半潰　七十四坪 大正十一年建築
	門　壱宇	倒レシ木株ノ為メ横ニ傾斜シ六七寸居去リ、
	物置　壱棟	五六分傾斜シ、家根瓦全部墜落ス、
	法窟	日蓮上人立正安国論著述ノ法窟ノ周囲ノ山約廿坪位崩レリ、
	態王堂　壱棟	山崩レノ為メ埋没ス、
	境内境外　保安林　八ヶ所	約三百坪位崩レリ、
	門西側ノ石塀　十二間	全部墜落ス、其他石段、石懸ヶ破損ス、
	仏像　一	破
別　願　寺 報告日未詳	本堂及び庫裡　一個	全潰
	門　一個	全潰
	附属建物（貸家）　一個	半潰
	仏像（什物）　三個	破損
	裏ノ山　一ヶ所	崩壊（百坪埋没）
常　栄　寺 報告日未詳	本堂　一棟	全潰　建坪二十五坪
	庫裡　一棟	半潰
	所有山林 保安林　凡ソ二反歩	崩潰
	門及附属物　二	全潰
妙　本　寺 T12.9.18.報告	祖師堂　間口一一　奥行一二(間)	小破損
	釈迦堂　同　三　同　四	倒潰
	宝　蔵　同　三　同　四	大破損
	水　屋　同　弐　同　弐	倒潰
	二天門　同　五　同　三	小破損
	鐘楼堂　同　二　同　二	倒潰
	客　殿　同　八半　同　七	倒潰
	庫裡（本堂）同　七　同　一五	倒潰
	附属建物　同　三　同　四	小潰
	物　置　同　五　同　弐半	倒潰
	経　蔵　同　二　同　二	小破
	地蔵堂　同　三　同　三	倒潰
	寺中 大円坊　同　五　同　六	倒潰
	惣　門	倒潰
	所有山林（保安林）	弐拾壱ヶ所　崖崩　凡　五反歩
教　恩　寺 報告日未詳	本堂　壱棟	倒壊
	庫祠　壱棟	半壊
	崖崩　壱ヶ所	五百円也
大　宝　寺 （報告日未詳）	庫裡　一個	半潰
	寺有山林　二個	山崩レ約三畝歩　一、杉植林地廻リ損害
	大町北側一二四一	二、雑木林地スベリ〃
	〃　山林ノ内　一個	崖崩落樹木数十本　損害
	〃　〃　一二四三	廿坪位
	本堂　一棟	半潰　十四坪半　明治四十二年建築（復旧済）
八雲神社 報告日未詳	社殿　壱棟	拝殿 幣殿 本殿 全壊ス
	末社社殿 壱棟	全壊ス
	神輿庫　壱棟	土蔵造壁ノ落チ亀裂ヲ生ジタル個所アレド倒レズ
	石鳥居　弐基	倒壊ス
	石燈籠　七基	倒壊ス
	土手　拾間	崩壊ス
	山林　約三反歩	崩壊ス

乱橋材木座

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
啓　運　寺	本堂　壱棟	全潰、五坪 弐拾七坪

報告日未詳	仏像　　壱体	日蓮聖人ノ像大破損
	什器	仏具。経文。古書等全潰 后ノ大雨ニテ破損若クハ消失
実　相　寺 報告日未詳	本堂　　壱棟	全潰
	仏像　　大小四十軀	破損
	厨子　　三個	碎破
	宝前附属品	
	門　　壱棟	倒壊
	保安林　山林　　四ヶ所	山崩
九　品　寺 報告日未詳	本堂　木造草葺　壱棟	間口六間半 奥行五間 庫裏兼用　倒潰
	本尊　木仏像　　大小五軀	斯ハ大家根圧倒セシ為メ未ダ内部ノ調査スル能ズト云ドモ大部分破壊ノ見込
	仏具什宝類	
	惣門　木造草葺　壱棟	建坪四坪　倒潰
	境内所有地	大損害ナシ
光　明　寺 報告日未詳 （図 21.）	本堂　　十五間四面	内部は全部破壊（外観は存す）
	開山堂　十二間四面	前半分は倒壊、内部は全然破壊さる　寛政年間建立
	大方丈　間口十一間半 奥行十五間	全然倒壊す　　文化八年建立
	二尊堂　間口六間 奥行五間	同右
	総門	傾斜
	勝手門	倒壊
	経蔵	倒壊
	庫裡　間口十間 奥行十三間	倒壊　明治十八年
	什物	国宝は博物館存管。貴重品は全部無事　什物中の雑品は目下整理中
	保安林	殆ど全部　各所に崖崩れあり
蓮　乗　院 T12.9.18.報告	本堂	半潰　（五十六坪）
	庫裡	全潰　（五十坪）
	門	破損　（四　坪）
	石塀	全倒潰（十三間）
	山崖ノ崩潰、立木転倒等ノ被害ハ更ニ無之	
千　手　院　報告日未詳	被害別　　全潰	堂宇一棟（本堂 庫裡兼用）
妙　長　寺 報告日未詳	本堂　　壱棟	間口六間半 奥行五間　全倒潰
	庫裡　　壱棟	間口七間 奥行二間半　全倒潰
	表門　　壱棟	九尺四方　全倒潰
来　迎　寺 報告日未詳	本堂兼庫裡　一	半潰
	本尊　　三	御仏体ニ異状ナシ其蓮台ヲ少破セシノミ（三浦大介守本尊運慶作）
	境内　　一	異状ナシ
	宅地　　一	能蔵寺三百拾五番地崖崩ノタメ建造物、該宅地ハ復旧モ得ザル呈度埋没ス
	田　　二	能蔵寺三一二、三一三番ハ山崩ノタメ約七拾坪埋没ス
	畑　　一	約廿坪ニ山崩アリ
	山林　　一	崖崩約六百坪アリ 依テ植樹、杉弐百本ヲ損傷ス
向　福　寺 報告日未詳	本堂　　一棟	再ビ修繕ノ余地ナシ（木材モ使用不可）
	庫裡　　一棟	戸障子破レ、骨折レ、壁落チ、柱折レ、屋根損ミ、修理ヲ加フル価値ナシ。材木モ殆ド使用不可。
	山門　　一棟	横ニ倒レ、大部屋根損ネ、柱古ク使用に適セズ、之モ修理ノ余地ナシ。
	什宝　　三体　四本　五点	仏像損ジ、殊ニ阿弥陀如来ハ全ク不具ニナリ。軸物大部破損ス。什器モ大部破損ス。
	墓地	石塔倒シタノミ 大シタ損害ナシ。
五所神社 T12.9.18.報告	本殿　　壱社	但シ　崖崩
	并ニ拝殿　壱社	仝
	御輿殿　　壱棟	震災
	御影鳥居 大小　弐基	仝
	石灯籠　　壱対	仝
		但シ崖崩　山高サ四拾間　横参拾間位
補陀洛寺 T12.9.18.報告	本堂　平家瓦葺	桁行六間半　梁行四間半　　全潰
	庫裡　仝	仝　三間　　仝　二間半　　全潰

（図 22.）	向拝　平家瓦葺	二間半　　六尺　　全潰
	但シ当寺ノ宝物平家ノ赤旗　頼朝公ノ野位牌及霊仏宝器等ハ更ニ損傷ナク取出候	

長谷

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
光　則　寺 報告日未詳	本堂　　一	一金壱千弐百円也　　間口五間 奥行五間
	庫裡　　一	一金六百円也　　間口八間 奥行四間
	門　　一	一金八百円也
	境内崖崩　石垣一ヶ所	一金壱百円也
	山林崖崩　五ヶ所	一金八百円也
光　則　寺 「長谷区 震災誌編纂資料」	本堂三尺許南方ニ傾キタリ 庫裡六拾坪ノ草葺家、屋全体一尺五寸辷リ出シ 惣門倒壊セリ	
高　徳　院 T12.9.18.報告 （図 23.24.）	大仏（国宝）　一軀	（仏像無事）石台座破損　地中へ一尺五寸目入込ム
	庫裏　一棟	間口九間 奥行四間　茅葺　下屋 便所共ニ　全潰
	寺務所　札場　一棟　一棟	三間ニ五間　三間ニ五間　瓦葺　下屋 便所共　全潰
	勝手	間口四間半 奥行二間半　瓦葺　陽殿 便所共　半倒
	二階立 客室　一棟	間口三間 奥行三間半　瓦葺　全潰
	仁王門　一棟	間口四間半 奥行三間　亜鉛葺（仁王尊像破損ス）　傾斜
	水屋　一棟	間口六尺 奥行五尺　亜鉛葺　全潰
	仏像　七軀	胎内本尊　観音　内仏本尊三体　地蔵尊二体　大破
	古碑墓　二十基	転覆
	山崩　三ヶ所	ソノ内壷山ノ山崩ハ大谷里道を閉塞シテ危険ナリ（保安林）
	橋梁　三ヶ所	仁王門前石橋、池中磯渡土橋等墜落
長　谷　寺 報告日未詳	建造物　九	全部倒潰
	仏像　二十	大破損
	境内　数ヶ所	陥落　亀裂　等
	山林　同	崖崩
	○建造物　九	名称：鐘楼、阿弥陀、大黒堂内仏及庫裡、講中部屋、書院、観念堂、物置キ、本堂、総門傾斜
長　谷　寺 T13.報告 （図 25.）	総門　拾弐坪	半潰
	内仏殿　参拾坪	全潰
	阿弥陀堂　七坪	仝上
	大黒堂　七坪半	仝上
	念仏堂　壱坪半	仝上
	鐘楼堂　四坪	仝上
	書院　拾弐坪	仝上
	講中部屋　拾弐坪	仝上
	庫裡　四拾坪	仝上
	物置　九坪	仝上
	仏像　四拾弐軀	破壊
	什具　弐百点	仝上
	山林　七ヶ所	崩潰
神明社（甘縄神明社） T12.9.18.報告	神社 拝殿　壱棟	建坪拾四坪拝殿全部倒壊破損ス
甘縄神明宮 「長谷区 震災誌編纂資料」	本殿渡殿小破セリ　摂社少破損 境内山崩アリシモ被害ナシ 社名石標折レ　石鳥居倒壊ス	

坂ノ下

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
御霊神社 報告日未詳 （図 26.）	本殿　一棟	山林崩落ノ為メ傾斜ス　復旧ノ見込不明
	幣殿　一棟	仝　復旧ノ見込不明
	拝殿　一棟	仝　復旧ノ見込不明
	神輿舎　一棟	山林崩落ノ為メ壊倒　復旧ノ見込ナシ
	仝　一棟	仝　仝　ナシ
	水屋　一棟	壊倒　仝　ナシ
	鳥居　一基	仝　仝　ナシ
	灯篭　二基	仝　仝　ナシ
	玉垣　全部	仝　仝　ナシ

	道具入　　一棟	仝　　仝　ナシ

極楽寺

社　寺　名	建造物・什宝・境内等種類・員数 等	被害程度（被害額ほか、寸法・法量等も含む）
極　楽　寺 報告日未詳 （図 27.）	本堂　　壱棟	四間半四面　　倒壊
	客殿　　壱棟	間口四間半 奥行五間　　倒壊
	庫裡　　壱棟	間口四間半 奥行五間　　倒壊
	物置　　壱棟	間口三間半 奥行弐間　　倒壊
	什宝物　五拾六帖	
	所有地　崖崩　七百坪位	凡五百円位
	門　　壱棟	二間 二間　七分倒壊
成　就　院 報告日未詳	本堂　　壱棟	山崩ノ為メ九分方破損カヲク建チ居ルノミ
	庫裡　　壱棟	山崩ノ為メ全滅
	玄関　　壱棟	半壊
	物置　　壱棟	全滅
	土蔵　　壱棟	半壊
	門　　壱棟	横倒
	山林崖崩	拾ヶ所　凡壱千五百坪
八雲神社　報告日未詳	草家根　　一	全潰　崖崩
熊野神社　報告日未詳	木造草家根　一	全潰
諏訪神社　報告日未詳	木造草家根　一	全潰

№2.『神奈川県鎌倉郡寺院宝物調査報告書（写）』（鎌倉国宝館）

小引

大正十三年十一月七日神奈川県庁ノ嘱託ヲ受ケ、約一ヶ月ノ時日ヲ限リテ県下鎌倉郡鎌倉町並ニ其附近ノ寺院ノ仏像什宝ヲ調査シ、旁々十二年九月大震災ノ被害程度ヲモ注記スルコトトナリタリ。迩来其方針ノ下ニ事業ヲ進メ、畧ボ完了スルヲ得タルヲ以テ調査品目ヲ整釐シ茲ニ之ヲ報告ス。

大正十四年三月　　田中 豊蔵

緒言　凡例

一、鎌倉附近は寺院頗る多く、其全部を調査することは到底一ヶ月の短時日の許す所にあらざるを以て予め畧ぼ目標を作り、大伽藍又歴史上著名なる寺院、若くは前人の著録によりて多の什宝を蔵せることを知り得たるものにのみ就いて調査を進めたり。

一、調査したる寺院は、其全部の仏像並に什宝を閲覧することを目的としたるも、震災後の復旧困難にして破損せる仏像は唯だ破片を堆積するに任せて、為に調査の不可能なるもの往々あり。什宝も亦未だ整理の緒に就かず、其所蔵の場所より乱抽して展閲するが如き状態なれば、間々遺漏なきを保せず。是れ全く遺憾とする所なり。

一、寺院の仏像什宝に就いては成るべく多数を著録せんことを努めたるも、閲目したる全部を録する中は是又到底限られたる。一ヶ月内にては予定の進行を求めがたきを以て、或る件は其全部を、或る件は其中の重なるものゝみを著録せり。其省畧に従へるものには特に注意を価するものなしと知るべし。

表 2.調査表から。地震破損に関する記述のある仏像・什宝のみを掲出した。

所在社寺	品目（指定）	員数	破損程度	備　　考
妙本寺 鎌倉町小町	木、釈迦如来坐像	一	大破	旧釈迦堂
	木、四菩薩坐像	四	大破	〃
	木、四天王立像	四	大破	〃
	木、釈迦立像	一	手離ル、首枘離ル、胸に傷あり	宝蔵
延命寺 鎌倉町小町	木、阿弥陀立像	一	大破（未見）	本堂
	木、地蔵立像（△）	一	頭二分し、体破裂四肢散落す	〃
宝戒寺 鎌倉町小町	木、地蔵及両脇侍像（〇）	三	地蔵は破壊多し 両脇侍は稍少し	旧本堂 地蔵及帝釈天、銘文修理時発見
	木、五代国師 慧鎮像	一	首はなし 胴破壊す	
	木、普川国師像 惟賢（△）	一	首はなし	
	厨子入、木、地蔵坐像（△）	一	仏体小破 厨子大破	
本覚寺 鎌倉町小町	釈迦及両脇侍像（△） 釈迦 文珠 普賢ナリ	一	本体小破 台座光背等大破	旧分骨堂
	木、持国天立像（△）	一	小破	〃
	木、多聞天立像（△）	一	小破	

来迎寺 鎌倉町小町	木、阿弥陀坐像	一	本体小破 台座大破	
	木、如意輪観音坐像（〇）	一	台座破壊	旧法華堂にあり
	木、地蔵菩薩坐像（△）	一	小破	是も旧法華堂にあり
瑞泉寺 鎌倉町二階堂	木、地蔵菩薩立像（〇）	一	首落ちたり	地蔵堂 旧智岸寺にありしもの
	木、無窓国師坐像（△）	一	首 袖離る	
覚園寺 鎌倉町二階堂	木、薬師如来坐像（〇）	一	台座破壊 本体殆無事	薬師堂
	木、日光 月光二菩薩像（△）	二	日光の顔だけ無事 他は全部破壊	〃
	木、十二神将像（△）	十二	或は首落ち 或ははなれたれど大破なし	〃
	木、心慧和尚像	一	首枘、両手裳先はなる	
	木、阿弥陀坐像（△）	一	台座は小破	伝旧理智光寺本尊
高徳院 鎌倉町長谷	木、聖観音立像（△）	一	中央より二分し、首、手散落す	大仏胎内
	木、梵天、地蔵、帝釈天立像	三	台座破壊、其他小破	
長谷寺 鎌倉町長谷	木、阿弥陀如来坐像	一	大破、但し寺にて仮修繕成る	阿弥陀堂
極楽寺 鎌倉町極楽寺	木、忍公律師坐像	一	四肢・胴体共に分離、首を除きて破裂す	仮本堂
成就院 鎌倉町極楽寺	木、不動明王及二童子立像	三	不動手離る 台座破壊す	本堂
浄泉寺 鎌倉郡腰越津村腰越	木、閻魔王坐像	一	体の各部分解す	旧閻魔堂
寿福寺 鎌倉町扇ヶ谷	乾漆、釈迦如来坐像（〇）	一	小破	仏殿
	銅、薬師如来坐像	一	台座破損	〃
	木、十一面観音坐像	一	台座破損	〃
	木、宝冠釈迦如来坐像	一	台座破壊	
	木、栄西禅師坐像	一	椅子破壊	
	木、栄西禅師坐像	一	小破	
	木、達磨坐像	一	椅子破壊	
	木、覚智禅師坐像	一	椅子破壊	
	木、某禅師像	二	一は膝部紛失	
	木、伽藍神坐像	四	二体はやゝ完全 二体は首離れ体破壊す	
海蔵寺 鎌倉町扇ヶ谷	木、源翁禅師像	一	胴体大破	
建長寺 鎌倉郡小坂村山ノ内	木、地蔵菩薩（〇）	一	大破	旧仏殿（現仏殿）
	木、千手観音坐像	一	大破	法堂
	木、薬師如来像	一	大破	旧仏殿（現仏殿）
	木、観世音像 厨子入り 伝陳和卿作（△）	一	大破	
	本寺ハ此外仏像多キモ震災被害甚シク精シク調査スルヲ得ズ			
円応寺 小坂村山ノ内	木、十王像ノ内（△）	八	二体ハ剥目ハナシ、所々ニ裂傷アリ、 六体大破	本堂
	木、奪衣婆像（△）	一	首落チ、肩並ニ体ニ裂傷アリ	胎内ニ永正十一年ノ長文ノ墨書アリ
	木、地蔵半跏像	一	体ニ裂傷アリ、左足ハナル、岩座破壊	
	木、鬼像	一	両手ハナル	
浄智寺 小坂村山ノ内	木、釈迦坐像	一	台座破壊、光背破壊、首枘ハナル	本堂
	木、弥陀坐像	一	大破（未見）	〃
	木、弥勒坐像	一	大破（未見）	〃
東慶寺 小坂村山ノ内	木、釈迦如来坐像（△）	一	大破	旧仏殿
	木、両脇侍 文殊 普賢 像（△）	二	其一大破　其一亡失	

	木、宝冠観世音半跏像（△）	一	小破	
	木、観世音半跏像（△）	一	下半身破壊、手、首等に小破あり	
	木、地蔵菩薩半跏像（△）	一	所々小破	
	銅、阿弥陀坐像	一	台座に小破あり	
	銅、釈迦坐像	一	仝　　上	
円覚寺 小坂村山ノ内	木、釈迦如来像	一	大破（未見）	旧仏殿
	木、梵天像	一	首はなる（未見）	〃
	木、帝釈天像	一	〃　（〃）	
	この外達磨、百丈、臨済、祖元の像各一体あり、皆大破せしと云ふ、未見			
	木、地蔵菩薩立像	一	破壊（未見）	旧舎利殿（現舎利殿）
	木、観音立像	一	〃（〃）	〃

№3. 鎌倉大仏の被災と修復に関する史料（一部長谷地区の社寺を含む）

「長谷区 震災誌編纂資料　相澤」と相澤善三のもう一つの原稿から

○社寺被害状況

１村社甘縄神明宮 文政年間ノ建築ナリト伝フ

拝殿十二坪全潰ス

本殿渡殿少破セリ　摂社少破損

境内山崩アリシモ被害ナシ

（枠外）社名標折レ　石鳥居倒壊ス

２高徳院

庫裡弘化年間建立全潰ス

仁王門礎石ヲ外レ全躰ニ二尺前ニ移動セリ

手水屋全潰

門前ノ石橋二ツニ折レ墜落ス

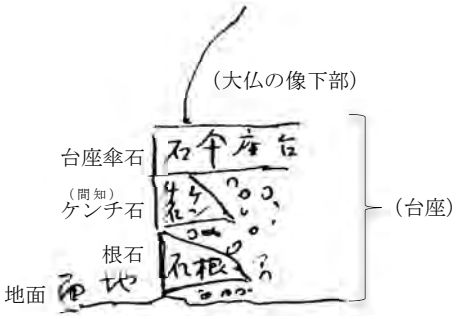

図 1. 鎌倉大仏台座基壇模式図

（図 24. 参照）

特別保護建造物大仏被害状況

全躰一尺五寸前ニ辷リ出シ、台座石後側三寸・前側一尺五寸地中ニめり込ミタリ、大正十三年一月十五日ノ地震ニテ更ニ全部一尺許後方ニ退キタリ、

修繕ニ当リテ従前ノ基礎工事ヲ調査セシニ、前側及左右両側ハ伊豆産割栗石ヲ打チ、其目ツブシニ土丹岩ヲ用ヒ、後側ハ鎌倉石幅三尺、厚サ一尺二寸、長サ五尺ノ捨石ヲ並べ、前後左右側共地面マデ五寸ノ深サ搗キ上ゲ、根石ハ伊豆産小松石小口幅二尺、厚サ一尺二寸、控長サ二尺五寸ノ間知石ヲ並べ、中石モ同寸法ノ石ニテ布積ニシ、其上ニ小口幅三尺、厚サ一尺二寸、長サ六尺地紙形ノ石ヲ細目地ニ並べ、間知石ノ裏込ニハ土及土丹岩ニテ搗キ堅メアリタリ、裏込不完全ノタメ崩壊シ易ク、前側ハ捨石ナキタメ沈下シ、後側ハ捨石アリシタメ沈下少ナカリキ、

修繕工事ハ、神奈川(県)知事清野長太郎氏監督ノ下ニ東京市ノ戸田組請負ヒタリ、下請負ハ長谷ノ羽重田豊吉従事セリ、

従前ノ基礎タル土丹岩ヲ掘リ起シ割栗堅石ノ所ニテ止メ、幅六尺厚サ一尺五寸ノ基礎コンクリートヲ打チ、其上ニ間知石ヲ積ミ直シ、更ニ一側通リヲ増シ、裏込ヲコンクリートニテ厳重ニ詰メ、傘石ハモルタルニテ据エ、尚ヨクツギトロヲナシ、各石間ニハ一時角鉄カスガイヲ打チモルタルニテ塗リツブシ、大ナル一枚石ノ如クナセリ、

周囲ノ礎石ノ内部ハ四寸厚サノコンクリートヲ傘石上ニ打チ、五分厚モルタルニテ上塗ヲナシテ床トス、

仏躰ハ周囲ニ本足代ヲ組ミ、廻リ桟橋ヲ掛ケ、帝室技芸委員新海竹太郎氏主任トナリ鋳工修繕ヲ行ヒタリ、□(顔)下及雨風ニ打タレシコト少ナカリシ、部分ニ金箔ノ薄ク残リタルヲ認メタリ、胎中ニハ鉄柱ヲ立テ鉄梯子ヲ造リタリ、

大正十四年十月工事ヲ終レリ、

（枠外）工事関係者　文部省技師　工学博士

帝室技芸委員　新海

神奈川県教務課長　萱場軍蔵

相澤善三の別原稿

寺院ノ被害

高徳院

特別保護建造物大仏(阿弥陀如来銅像)

全体一尺五寸前方ニ辷リ出シ、台座石後側三寸・前側一尺五寸地中ニめり込ミタルガ、大正十三年一月十五日ノ地震ニテ更ニ全体一尺許後方ニ退キタリ、

修繕ニ当リ従前ノ基礎工事ヲ調査セシニ、前側及左右両側ハ伊豆産割栗石ヲ打チ、其目ツブシニ土丹岩ヲ用ヒ、後側ハ鎌倉石幅三尺、厚サ一尺二寸、長サ五尺ノ捨石ヲ並べ、周囲ハ五寸ノ深サニ搗キ上ゲ、根石ハ伊豆産小松石小口幅二尺、厚サ一尺二寸、控長サ二尺五寸ノ間知石ヲ並べ、中石モ同寸法ノ石ニテ布積ニシ、其ノ上ニ小口幅三尺、厚サ一尺二寸、長サ六尺ノ地紙形ノ石ヲ細目地ニ並べ、間知石ノ裏込ニハ土及土丹岩ニテ搗キ堅メアリ、裏込不完全ノタメ崩壊シ易ク、前側ハ捨石ナキタメ沈下シ、後側ハ捨石アリシタメ沈下少ナカリキ、

修繕工事ハ文部省ノ直営ニヨリ、従来ノ基礎タル土丹岩ヲ掘リ起シ割栗石ノ所ニテ止メ、幅六尺厚サ一尺五寸ノ基礎コンクリートヲ打

チ、其上ニ間知石ヲ積ミ直シ、更ニ一側通リヲ増シ、裏込ヲコンクリートニテ厳重ニ詰メ、傘石ハモルタルニテ据エ、尚ヨクツギトロヲナシ、各石間ニハ一時角鉄カスガイヲ打チモルタルニテ塗リツブシ、大ナル一枚石ノ如クナセリ、
周囲ノ礎石ノ内部ハ四寸厚サコンクリートヲ傘石上ニ打チ、五分厚モルタルニテ上塗ヲナシテ床トス、
仏体ハ周囲ニ本足代ヲ組ミ、廻リ桟橋ヲ掛ケ、帝室技芸委員新海竹太郎氏主任トナリ鋳工修繕ヲ行ヒ、胎中ニハ鉄柱ヲ立テ鉄梯子ヲ造リ、大正十四年十月工事ヲ終リタリ、
庫裡(文化年間建立)全潰。二王門ハ礎石ヲ外レ全躰二尺前方ニ移動セリ。門前石橋二ツニ折レテ墜落セリ。其他仏像五軀破損セリ。

№4.建長寺（鎌倉町外）の被災と復興に関する史料（鎌倉市中央図書館）

「調書」(S5.4.11 鎌倉町役場依頼「復興資料ニ関スル件」の回答より）1枚目

一、社　寺　名	建　長　寺
二、工作物ノ名称	専門道場庫裡　大本山仮宗務院　禅堂
三、工作物ノ大キサ	専門道場庫裡 三十二坪　宗務院 百五十坪　禅堂 三十坪
四、工事着手ノ年月日	道場庫裡 昭和二年一月　宗務院 大正十三年十月　禅堂 本月着手
五、工事　竣工年月日	道場庫裡 昭和二年六月　宗務院 大正十四年七月
六、工費　精　算　額	道場庫裡 八千七百円　宗務院 一万三千七百円　禅堂 四千弐百五十円
七、工費支出ノ方法	道場 末寺寄附　宗務院 復旧費
八、工事ノ概況	宗務院ハ賦課金ニヨリ、庫裡方丈全潰ノ跡地ニ建立 道場庫裡モ同様 宗務院ハ仮建築ニテ折リヲ見テ何レ、庫裡ハ庫裡、方丈ハ方丈」ト本建築執行ノ予定 現在ノ仮方丈ニ連ナリ隠寮三十五坪アリ

「調書」(S5.4.11 鎌倉町役場依頼「復興資料ニ関スル件」の回答より）2枚目

一、社　寺　名	建　長　寺
二、工作物ノ名称	山門　法堂　鐘楼
三、工作物ノ大キサ	山門 縦五間 横七間 高六十五尺　法堂 縦七間 横九間 高七十尺　鐘楼 縦二間 横二間 高二十尺
四、工事着手ノ年月日	大正十二年十二月（山門・法堂共）　鐘楼 十三年三月
五、工事　竣工年月日	大正十三年三月（山門・法堂共）　鐘楼 十三年七月
六、工費　精　算　額	山門 七百円　法堂 五千五百円　鐘楼 五百円
七、工費支出ノ方法	末寺ニ賦課セル震災応急及復旧費
八、工事ノ概況	山門、法堂共ニ震災ニ半潰、山門ハ棟落チ二階以上ハ組」物ノ折レ多ク、法堂又丸柱支石ヨリ一寸ノ余地ヲ余シテ外レント」セル折、何レモ直チニ支柱ニヨリ立ナヲシテ支へ、本派臨時宗会」ニ諮リ応急復旧費ヲ寺班割ニトシ上納スル事トナリ、直チニ復旧ニ」着手（名古屋方面ヨリノ渡リノ大工連一行、土木一切ヲナスモノ）充」分ナル能ハザリトモ止ムヲ得ザリキ 山門安置ノ五百羅漢ハ青銅ナリシ為メ破損無シ 法堂安置ノ千手観音ハ大破、奈良美術院ノ手ニヨリ修復

「調書」(S5.4.11 鎌倉町役場依頼「復興資料ニ関スル件」の回答より）3枚目

一、社　寺　名	建　長　寺
二、工作物ノ名称	仏殿　昭堂　唐門
三、工作物ノ大キサ	仏殿 桁行四十一尺 梁行四十一尺 軒立五十一尺七寸　昭堂 桁行四十尺 梁行三十六尺 棟高三十八尺八寸五分 唐門 正面十三尺弐寸 側面七尺八寸三分 棟高二十一尺二寸
四、工事着手ノ年月日	仏殿、唐門、昭堂、共ニ大正十三年十一月十二日
五、工事　竣工年月日	仏殿 大正十五年五月卅一日　昭堂 大正十四年十月二十日　唐門 大正十五年五月二十日
六、工費　精　算　額	仏殿 四万七千百五十四円六十九銭　昭堂 壱万弐千参百五十九円七十九銭　唐門 参千八十七円八十壱銭
予　算　額	仏殿 四万四百四十六円八十銭　昭堂 弐万参千円　唐門 壱千九百五十六円五十七銭
七、工費支出ノ方法	国庫補助 六万壱千九百円　当山負担 壱万壱千六百円
八、工事ノ概況	三棟中、仏殿・唐門ハ震災ニ倒レ、昭堂ハ半潰 何レモ震災直後文部省ヨリ安間、塚本両技師来山、直チニ附号ヲ附シテ」取リ解キ保存ス 臨時議会ニ於テ臨時古社寺保存費ノ通過ヲ見テ、大正十三年十一月ヨ」リ復工事ニ着手ス

当時ノ委員		竣工当時ノ委員	
神奈川縣知事	清野長太郎	神奈川縣知事	堀切善次郎
工事委員長	市村慶三	修理工事委員長	小柳牧衛
副　〃	萱場軍蔵	副　委員長	大竹十郎
〃	別宮秀夫	仝	比企野　哲
〃	岡田正治		
委　員	加城　鍛	委　員	加城　鍛
〃	津金不二雄	〃	津金不二雄
〃	大澤　匠	〃	大澤　匠
〃	飛鳥田忠作	〃	飛鳥田忠作

工事監督　安間立雄　工事監督　安間立雄
工事主任　松本軒吉　工事主任　松本軒吉
工事助手　稲垣正造　工事助手　武内武彦
〃　竹内武彦
本尊ハ大破シ一時保存シ、竣成後奈良美術院ノ手ニヨリ修復安置

九、其他参考事項　以上三棟ハ共ニ大正十一年四月十三日特別保護建」造物ニ指定セラレタルモノ（図 28.～31.参照）

№5.鎌倉町外の社寺被災記録

「昭和十五年 社寺書類」（鎌倉国宝館）から。社寺名・住所・被災堂宇とその被災状況を記し、他は割愛した。

「寺院明細帳訂正願」

神奈川県鎌倉郡小坂村山ノ内一八九番地
神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内一八九番地（町名変更）
臨済宗建長寺派　明月院（中略）
庫裡・書院　大正十二年九月大震災ニテ全潰セ氏により再築ス
旧禅興寺堂　大正十二年九月一日ノ大震災ノ為全潰

神奈川県鎌倉郡小坂村大船壱参四九番地
神奈川県鎌倉郡大船町大船壱参四九番地
臨済宗建長寺派　常楽寺（中略）
一本堂　大正十二年大震災ニ全潰
一鐘楼　大正十二年大震災ニ全潰

神奈川県鎌倉郡~~小坂村~~山ノ内一五三四
大船村
臨済宗建長寺派　禅居院（中略）
本堂　震災倒潰ノタメ

神奈川県鎌倉郡大船町山之内千四百弐番地
臨済宗円覚寺派　浄智寺
本　堂　抹　消　震災倒潰 許可ニヨリ新築
書　院　〃　〃
庫　裡　〃　〃
隠　寮　〃　〃
看門寮　〃　〃
山　門　〃　〃
総　門　〃　〃

神奈川県鎌倉郡大船町山之内千参百六拾七番地
臨済宗円覚寺派　東慶寺　（図 33.参照）
本　堂　抹　消　震災倒潰 許可ニヨリ新築
客　殿　〃　〃
書　院　〃　〃
庫　裡　〃　〃
隠　寮　〃　〃
茶　席　〃　〃
鐘　楼　〃　〃
山　門　〃　〃
物　置　〃　〃

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内四五三番地
臨済宗円覚寺派　松嶺院
本　堂　抹　消　震災倒潰 許可ニヨリ復興
庫　裡　〃　〃
山　門　〃　〃
地蔵堂　〃　〃

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内四百六拾弐番地
臨済宗円覚寺派　白雲庵
本　堂　大正十二年倒潰

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内 臨済宗円覚寺派　臥龍庵
本堂兼庫裡　大震災ニ全潰
茶　室　仝

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内 円覚寺派　帰源院
本堂兼庫裡　大震災ニ全潰 昭和三年七月四日(中略)再建ス

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内 円覚寺派　蔵六庵
本堂兼庫裡　大震災ニ全壊 昭和三年八月一日(中略)再建ス

神奈川県鎌倉郡小坂村山ノ内四四四
神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内
臨済宗円覚寺派　寿徳庵
山　門　大正十二年大震災ニ倒潰ス

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内四九〇
臨済宗円覚寺派　桂昌庵
総　門　大正十二年大震災ニ倒潰ス

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内四百五十八番地
臨済宗円覚寺派　富陽庵
本　堂　震災倒潰ノ為メ大正十四年六月十三日（中略）許可改築センモノ
附物置　仝　上

神奈川県鎌倉郡大船町山ノ内四百八十三番地
臨済宗円覚寺派　伝宗菴
本堂兼庫裡　震災倒潰ノ為メ昭和三年九月十七日（中略）許可再築センモノ

神奈川県下相模国鎌倉郡玉縄村
神奈川県鎌倉郡大船町植木六五四番地
浄土宗　貞宗寺
総　門　大正十二年（前住職時代）震災倒潰 目下再建計画中

神奈川県鎌倉郡小坂村大字大船二千参拾五番地
神奈川県鎌倉郡大船町大船二〇三五番地
古義真言宗　多聞院
山　門　大正十弐年大震災ニ倒潰
土　蔵　右仝上

神奈川県鎌倉郡大船町岡本九十九番地
曹洞宗　黙仙寺
本　堂　本堂大震災倒壊后昭和三年六月五日(中略)新築許可、仝五年八月六日竣工届済

神奈川県鎌倉郡大船町小袋谷七百弐拾壱番地
真宗　本願寺派　成福寺
物　置　震災ノタメ倒壊取毀ス

図 2. 震災被害調査表（鶴岡八幡宮）
鎌倉市中央図書館

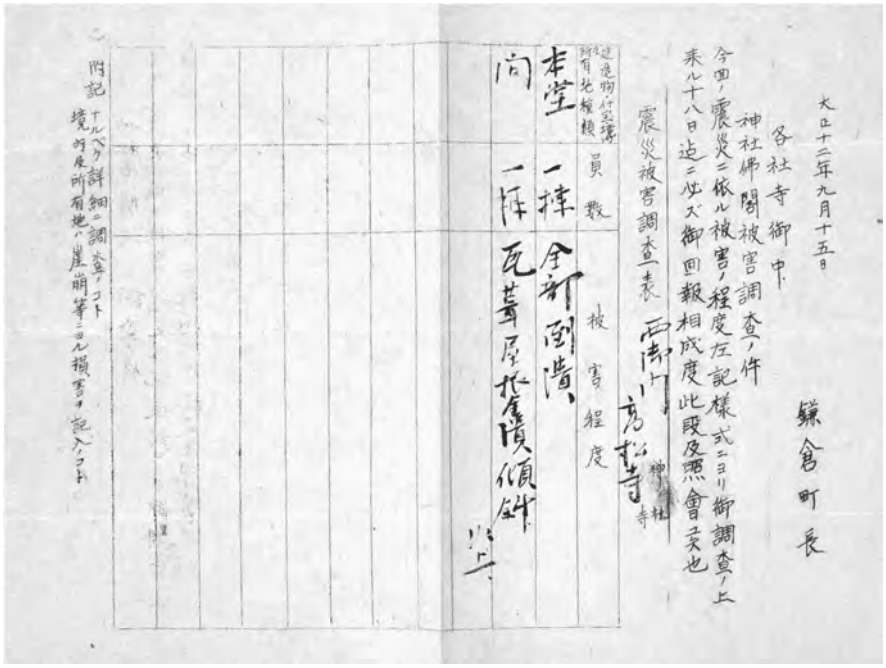

図 3. 震災被害調査表（高松寺）
鎌倉市中央図書館

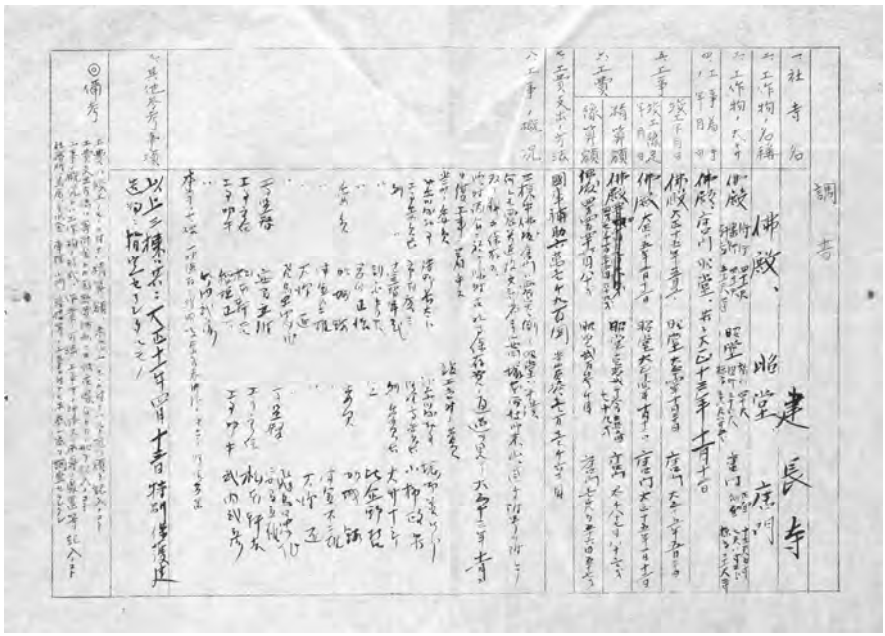

図 4. 調書（建長寺〔修理後のもの〕）
鎌倉市中央図書館

№6. 社寺の被害状況写真集

図 5. 光触寺 鎌倉国宝館

図 6. 報国寺 鎌倉国宝館

図 7. 荏柄天神社 鎌倉国宝館

図 8. 鶴岡八幡宮 鎌倉国宝館

図 9. 鶴岡八幡宮（楼門） 鎌倉国宝館

図 10. 鶴岡八幡宮（白旗神社） 鎌倉市中央図書館

図 11. 鶴岡八幡宮（三ノ鳥居） 鎌倉市中央図書館

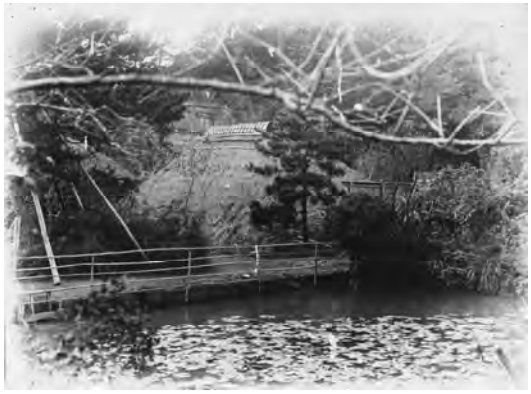

図 12. 浄光明寺 鎌倉国宝館

図 13. 海蔵寺 鎌倉市中央図書館

図 14. 寿福寺 鎌倉国宝館

図 15. 英勝寺 鎌倉国宝館

図 16. 大巧寺(門前) 鎌倉国宝館

図 17. 宝戒寺 鎌倉市中央図書館

図 18. 妙法寺 鎌倉国宝館

図 19. 長勝寺 鎌倉国宝館

図 20. 安養院 鎌倉市中央図書館

図 21. 光明寺 鎌倉国宝館

図 22. 補陀洛寺 鎌倉市中央図書館

図 23. 高徳院(鎌倉大仏)

図 24. 大仏台座の解体状況

図 25. 長谷寺(慈照院客殿) 鎌倉国宝館

図 26. 御霊神社 鎌倉市中央図書館

図 27. 極楽寺 鎌倉国宝館

図 28. 建長寺 (仏殿と法堂)

図 29. 建長寺（山門）鎌倉国宝館

図 30. 建長寺（方丈と法堂）鎌倉国宝館

図 31. 建長寺(唐門）鎌倉市中央図書館

図 32. 円応寺 鎌倉市中央図書館

図 33. 東慶寺 鎌倉市中央図書館

図 34. 円覚寺(総門)

図 35. 円覚寺(仏殿)

図 36. 円覚寺(舎利殿と開山堂）鎌倉国宝館